

【中学校 国語】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の中学校国語の正答率は61%で、全国の平均正答率と比べ▼2.9%、県の平均正答率と比べ▼2.0%それぞれ下回りました。「読むこと」の平均正答率は、54.8%（全国59.7%、県57.0%）と全国平均より▼2.9%低くなっています。「書くこと」の平均正答率は、63.2%（全国67.4%、県66.5%）と全国平均より▼4.2%低くなっています。

2 特徴が見られた問題

2二 (必要に応じて質問をしながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題)

【話し合いの一部】の一線部②「例えば、『歌声に強弱がつけられていない』や『高い音の部分がうまく歌えない』は、歌の表現の仕方になりますよね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。 【正答】 3

- 1 石川さんの発言の中で間違っている部分を指摘している。
- 2 石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
- 3 石川さんの考えに対する自分の理解が合っているかを確かめている。
- 4 石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている

本市の平均正答率は72.3%で、全国の平均正答率(70.4%)と比べ△1.9%、県の平均正答率(71.8%)と比べ△0.5%上回りました。話の内容を捉えることができると考えられます。

3四 (表現の工夫とその効果について、よい点と改善点を見いだすことができるかどうかをみる問題)

問題：この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。

【正答】：(例)

〈よい点や改善点〉

スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉

読み手の印象に残るような比喻を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。

本市の平均正答率は、38.0%で全国の平均正答率(45.0%)と比べ、▼7.0%、県の平均正答率(42.0%)と比べ、▼4.0%下回りました。表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題があります。

3 これからの学習に当たって

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかの問題で良い成果が出ている要因として、国語科だけでなく「総合的な学習の時間」において、地域の方や企業の講話を聞き、要点を整理しながらまとめたり、その内容を発表したりする活動に取り組んできたことが挙げられます。

「書くこと」に課題があるため、思考の各過程で「共有(友達とのやり取りや相互閲覧)」する活動を取り入れる必要があります。友達のアイデアに触れたり、下書きの段階でお互いにアドバイスを送り合ったりすることで、自分の文章を客観的に推敲し、根拠のある論理的文章を構築する活動を充実させることが大切です。

①段落についての交流場面①	①段落についての交流場面②	【メモ①】	【メモ②】
石井 ①段落で、絵を描くことが趣味だということを印象付けるように工夫したのですが、どうでしたか。 山田 最初の「私には趣味がある。」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を読みたくなりました。 田中 私もそう思いました。	石井 スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。 田中 「その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。 山田 スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喻もあるのではないかと思います。	〈よい点や改善点〉 冒頭で「私には趣味がある」と趣味が何かを明かさないうことによって、読み手に先を読みたいと思わせることができました。 〈生かしたいこと〉 随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。	〈よい点や改善点〉 〈生かしたいこと〉